

主を誇る教会に

コリントの信徒への手紙Ⅱ一〇章7〜18節

「誇る者は主を誇れ。」自己推薦する者ではなく、主に推薦される人こそ、適格者なのです。(17、18)

コリント教会の人々は、外見だけで人を判断して自分を誇るような一部の人々に唆されてパウロを低く見ていました。真の神を知るとき、自分を誇ることがどんなに愚かなことであるかが分かるようになります。自分の中に何か優れている部分があったとしても、それは神からの賜物に過ぎません。それに気づくとき、私たちの内に誇るものは何もなくなります。「誇る者は主を誇れ」とパウロが勧めるように、キリスト者は私たちを生かしていただく主イエスだけを誇りとする者たちです。教会はまさに、キリストだけを誇りとするのが貫かれる場所です。どんな人も、自分を誇ろうとする誘惑を断固として退けなければなりません。そうでなければ、教会が教会ではなくなってしまうからです。私たちはただキリストだけを誇りとする教会でありたいと願います。